

— — — 幅広い研修を積み重ねよう — — —

玉島四中学校区合同研修視察

「長島愛生園」を訪ねて

平成24年9月12日



今年は、国立療養所長島愛生園へ40名がバス1台で行きました。昭和5年11月20日国立らい療養所として発足し、昭和21年に「国立療養所長島愛生園」に変更され現在に至っています。

ハンセン病は「らい菌」によって起こる細菌感染症で、現在は治療薬が開発され簡単に治癒しますが、病気による後遺症は残ります。長島愛生園歴史館や万霊納骨堂等島の中を視察しました。全員がハンセン病について理解できたと思います。戦前の病人に対する扱いが厳しく沢山の問題があったと感じました。社会に根強く残る偏見や差別をなくしていきましょう。(人権学習推進委員会副会長 小坂 秀三)

参加者の感想・・・

- ・ 現実を目で見て肌で感じました。改めて知識のなさを痛感しました。
- ・ ハンセン病はなくなっていますし、後遺症はあっても発病することは無いとお話がありました。ハンセン病をはじめとする種々の人権侵害に対する個々人の意識と社会の人々に対する啓発の努力をどう進めていくかが私たちに課せられた課題であり、日々努力すべきことであるということを強く感じさせられました。
- ・ 学習がすべてだと思いました。無知ゆえの差別は愚かだと思ふ。今後も機会があれば、積極的に参加して理解を深めたいと思いました。入居者である広瀬さんの力強いお話に感動しました。ハンセン病を糧として今後このような差別が起こらないようにしたいと思いました。

全国人権・同和教育研究大会

大会に参加して

マスカットスタジアムにおいて、第64回研究大会が今12月1・2日に始まろうとしています。倉敷北中学校の演奏に下津井中学校下津井節の踊りとオープニングセレモニーが続く。

『待望久しい本大会が多くの関係者の努力により岡山の地で開催できることに感謝いたします。また、この様な屋外で全体会が開催されることも過去に例を見ない経験ではないでしょうか。私たちがいくら頑張っても出来ないことが一つあります。それは今にも降り出しそうな天候であります。』との難波確夫実行委員長の挨拶で研究大会が始まった。

午後には各分科会場への移動である。第3分科会(進路・学力保障)の玉島北中学校へと出向く。長崎県の先生による「『行ってきます』の笑顔のために」の実践発表を聴講。さらに「全盲の花の女子高生を担任して」にも耳を傾けた。

翌日には長尾小学校で富田小の先生の出番である。同僚の先生の顔もある。実践の取組について丁寧にして自信に満ちた報告であった。

最後に一連の報告を聴講する中で、聴講機会が少ないだけに、よけいと新鮮みがあり、それぞれの取組の大切さと熱意を感じる充実した大会であった。

(人権学習推進委員会副会長 西尾 精一)





☆学校園の取組☆

5年生米作り

～地域の方に支えられて～ 富田小学校
 本校5年生は、数年前から地域の方の協力を得て、総合的な学習の時間に「米作り」に取り組んでいます。地域の方は、学校の近くの田んぼを貸して下さるだけでなく、もみ蒔き、田植え、稲刈



り、脱穀とその都度学校に出向いて子どもたちにやさしくやり方を教えてくださったり、一緒に作業をしてくださったりしています。米の収穫後は、子どもたちがお世話になった地域の方を「ライスパーティー」に招待して、楽しいひとときを過ごすことで感謝の気持ちを伝えることができました。

これからも地域とのつながりを大切にしながら、子どもたちの成長を共に支えていきたいと考えています。

ふれあい・交流活動

☆地域の行事をとおして☆



穂井田地区夏祭り

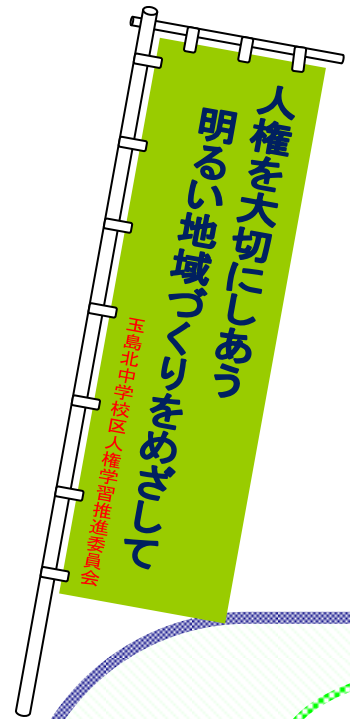


長尾地区運動会



富田地区運動会

ふれあい・交流活動をとおして
 住民相互の人間関係の輪を広げています。



もちつき大会

平成24年12月1日 穂井田小学校

穂井田小学校では、毎年、地域の方の協力のもと、もちつき大会を行っています。学校田で育てたもち米を使って、全校児童で協力しておもちをついたり、丸めたりしました。



6年生ともなると、慣れた手つきで、軽々と杵をもつ姿は大人も顔負けです。保育園や幼稚園の園児も参加し、つきたての美味しいおもちを口にほおぼりながら、楽しいひとときを過ごすことができました。

日本の良き伝統を肌で感じるとともに、子どもたちの成長のために快く携わって下さる地域の方の温かいまなざしに、改めて地域とのつながりの大切さを実感しました。

長楽荘のお年寄りとのふれあい

長尾幼稚園

10月16日と12月4日、年長児が長楽荘を訪問させていただきました。

1回目のふれあいでは少し緊張した様子の子どもたちも、2回目の訪問では、自分からお年寄りとペアになったり、ジャンケンゲームをしたり、「勝った!」「負けた」と嬉しそうな歓声がたくさん上がりました。

肩をたたいてあげると「いい気持ちじゃ」と喜んでくださるお年寄りの姿にとっても温かな気持ちをもつことができ、園児にとっても自信や喜びになりました。



人権学習の取組から

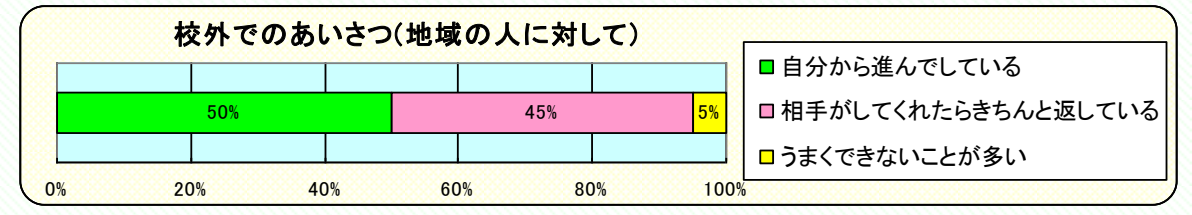
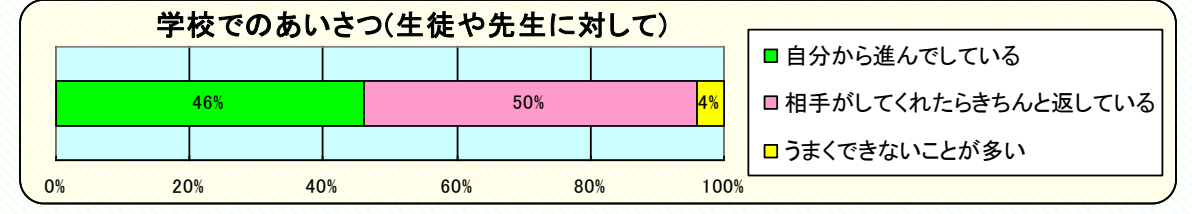
あいさつができる玉島北中学校に

倉敷市立玉島北中学校

玉島北中学校では、生徒会主催で毎年2回人権集会を行っています。平成24年度の第2回では、全生徒対象に行った「あいさつ」に関するアンケート結果の発表と生徒会及び有志による「あいさつ」に関するビデオの視聴を通して、「あいさつ」について考えました。アンケートの結果の一部は、次のとおりでした。

「玉島北中学校を
 どんな学校にしたいですか」

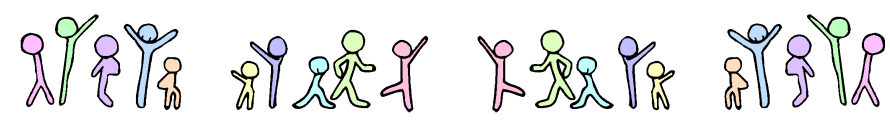
- ・あいさつができる学校 298人
 みんな笑顔で・誰にでも
 気持ちがいい・全員が
 自分から・素直な
- ・元気で明るい・笑顔の学校 117人
- ・みんなが楽しい学校
- ・みんなが仲良しの学校



《人権集会を終えての生徒の感想》

- ・改めて自分はあいさつができていなかったなと思った。でも、私も玉北をあいさつあふれる学校にしたいので、自分から少しでもあいさつをしようと思う。また、ただあいさつをするだけでなく、心のこもったあいさつができるようにしたい。
- ・あいさつと人権は関係ないと思っていたけど、あいさつをされて返さなかったら、あいさつをした人がいやな気持ちになると思いました。人権は難しいことだ思わずに、クラス・学年・学校のみならずみんなが仲良く生活していけるように普段から気をつけたいと思いました。
- ・あいさつをすると気持ちいいと改めて感じました。いじめのない悪口を言わない中学校にしていけたらと思います。

『さわやかなあいさつができる玉島北中学校になるように』学校でも取り組んでいますので、ご家庭や地域のご協力をお願いします。



玉島北公民館人権教育講演会

第1回「児童擁護施設から見た親子像」 平成24年9月15日

児童養護施設 玉島学園園長 田邊 裕宥 氏

玉島学園の成り立ちや日常の様子について、具体例を豊富に交えてユーモアたっぷりのお話。保護者のいない子どもたちを家庭に代わって育てる養護施設では、職員たちが子どもたちに寄り添って温かく接し、また子どもたちは子ども同士の結びつきを大切にしながら生活し、家族のように心の絆でつながっているとのこと。子どもはしっかり甘やかせてやること、そして抱きしめてやること。そうすれば、子どもの心は安定して落ち着いてくるそうです。あらためて、親子関係を振り返るきっかけとなりました。



第2回「良寛さんの坐禅体験」 平成24年11月14日

円通寺住職 仁保 哲明 氏

目で見えるもの耳で聞こえるものは常に私たちから通りすぎていくものであって、執着しているものではありません。時間や空間は流れていくもの。なのに、人はそれにしがみついていることがあります。自分自身がそれらのものをどのように受け止めているかが大切であるということです。

また、この世の中で一番大切なものは、かけがえのない自分。みんなは平等で同じ目線で生きているもの。自分が主役で、どこでも自分の居場所ということ。一人一人がそれぞれの立場で生きていくことのすばらしさを学びました。

人権ポスター・標語展

平成24年12月1日～11日
場所：玉島北公民館



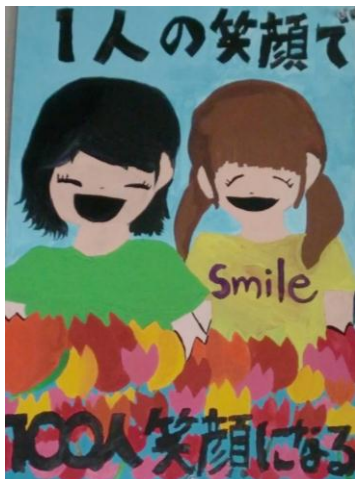
穂井田小2年 赤澤 美琴



富田小6年 宮地 幸菜



長尾小3年 宮崎 紗弥



玉島北中2年 小林 史佳

● 考えて
人がいやがる 言葉だよ
長尾小6年 岡本 蒼龍

● 笑顔はね
友達ふやす キーワード
穂井田小5年 田村 千尋

● 見つけよう
一人ひとりのいいところ
富田小2年 川上 晴や

● 言わないで
笑顔が消える その言葉
玉島北中3年 泉 陽梨